

週1プール 身も心も解放

いま No.1552
子どもたちは
この小さな学び舎で ④

毎週木曜日、お昼が近づくとつれて私立特別支援学校、愛育養護学校（東京都港区）の高等年の子どもたちは、少しだけそわそわし始める。木曜日の午後

は、プールへ出かけるからだ。

12月上旬の木曜日は、雨が降って冷え込む日だった。でも、プールへ行く5年のちかさん（11）たち4人は、お気に入りの歌を口ずさんだり、長靴をはいて水たまりを進んだり。徒歩15分ほどの場所にあるバス停まで歩く。

バスで区内のプールに到着すると、子どもも大人も男女分かれて更衣室へ。先生に手伝ってもらいながら、するするっと着

替え、すぐプールへ向かった。

ちかさんは深く潜ると、イルカのように大きくしなやかに泳ぎ始めた。プールが大好きで、前日から家族に「プールに行きます」と話していたという。

時々、ふいにプールから上がっているのは、ペットボトルに入れた水を様々な場所で滴らせること。傾けたペットボトルに耳をつけるようにして、プールサイドに落ちていく水を見つめる。



空気が入ったペットボトルは「びと、びと」と音をたてる。

プールが大好きなちかさん（左）。この日はペットボトルも持って行った。東京都港区

プールサイドに「ばしゃばしゃ」と落ちた水は、窓から入った太陽の光を受けて、きらきらと光った。

「ほら、できたよ！ みてー！」プールの中から声がした。4年の男の子（10）は先生たちに、何度も何度もぐり返りをしてみせた。2年のしゅうすけくん（8）はそのまわりをぬうようにして、水に浮かべたマットを動かしていく。マットの上に

は、持参したお気に入りのフィギュアが並んだ。

自由に泳いだり、潜ったり、まわったり。週1回のプールは、子どもたちの心身が解放され、それぞれに思い思いの表現ができる機会になっている。

この日も一緒にプールに入った橋本高子先生（44）は「普段はなかなか、話したり関わったりすることが難しい子ども同士の距離が、ここでは自然に、少し縮まるように感じます」。1時間半ほどをプールで過ごした子どもたちは、穏やかな表情をしていた。（円山史）